



子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 No.33 2021年10月10日発行

文献調査開始
から一年

あらためて核ゴミ問題 考えよう

① 一石投じてどうなった？

昨年、片岡町長は、「一石を投じる事で10ヵ所くらい文献調査の応募に手が挙がるのを期待している」と話していました。しかし、寿都と神恵内以外の自治体が応募する気配はありません。

それどころか、「核ゴミ No!」を宣言する自治体が増えています。とくに、島牧村、黒松内町、積丹町、豊浦町、せたな町など、寿都の周辺町村で核抜き条例の可決が相次いでいます。

文献調査に応募しない自治体が最終処分場になる可能性はありません。核抜き条例を否決した寿都は確実に狙われます。



お断りします

② 核のゴミ受け入れありえると表明

今年1月に共同通信が、全国の自治体に、核のゴミの最終処分場の受け入れがありえるかどうかアンケートを行いました。1469自治体が回答したなか、「受け入れありえる」と答えたのは全国でわずか2自治体、寿都町と神恵内村のみでした。

一方、青森県むつ市では、全国の電力会社が使用済み核燃料を持ってこようとしていることが判明しました。むつ市長は「むつ市は核のゴミ捨て場ではない」と強く反発しています。

原子力施設のある自治体ですら、核のゴミの処分場になることを恐れています。寿都町は飛んで火に入る夏の虫です。



③ 最終処分場を拒否するためには？



大事な故郷が核のゴミの最終処分場になることは、だれも望んでいないはずです。文献調査のつぎの概要調査、そのつぎの精密調査の段階でやめることができると片岡町長は言っています。

しかし、法律には、概要調査の前に、町長や知事が反対すれば進まない、としか書いていません。候補地としては残り続けます。町長や知事の意見が変わるのを国は待ちます。交付金は、意見を変えさせるための工作資金とも言えます。

最終処分場拒否のためには文献調査を撤回するしかありません。



④ 交付金頼りでは未来世代に大きな難題が



文献調査の交付金が、町の今年度予算に入りました。これは非常に危ういことです。交付金があることが前提で予算を組むようになれば、交付金がなければやっていけなくなり、最後まで行ってしまいます。

その最後となる最終処分場の建設を判断するのは、いまの子どもたちです。未来の世代に迷惑至極の難題を残すこととなります。今の自分たちさえよければ、それで良いのでしょうか。

それに、原発からの交付金をもらっている自治体の人たちは幸せに暮らしているのでしょうか。人口が減り、交付金の負い目で、もの言えなくなっているのが現状ではありませんか。



⑤ 住民投票条例に大きな欠陥あり

「現在の文献調査から概要調査に進む前に住民投票を行うので、安心してください」と片岡町長は言っています。

しかし、この住民投票には大きな欠陥があります。投票率が50%以上でなければ開票されないと決まっています。

つまり、概要調査に進むことに反対する人は反対票を入れるしかないのに対して、賛成する人は、賛成票を入れることも棄権することもできるのです。「投票所に行くのは反対派だ」とプレッシャーをかけることもできます。

住民投票は、町民意思を反映しないおそれがあります。住民投票に期待するより、いま文献調査を撤回しましょう。





⑥ NUMO（ニューモ）って何者なの？

NUMOを国の機関だと考えている人がいますが、あの人たちは公務員ではありません。勉強と称して、役場といっしょに「対話の場」を行っていますが、核のゴミ捨て場を造るところを決めて、処分する会社なのです。

スーツを着て、優しい言葉を使い、抗議の声にも丁寧に対応してくれますし、暑いさなかに花壇の世話などもする感じの良い人たちですが、ほかの通勤族の方たちとは寿都に来られている目的が違うのです。核のゴミを埋めることだけを目的とする人たちと運命を共にしますか？



⑦ 分断回避のためにも調査撤回しませんか

いま、町内では、文献調査に賛成する人、反対する人、そのあいだに立ってモノをいづらくなっている人がいます。家族や友人のあいだでも意見の違いがでてしまい、疑心暗鬼に過ごしているという声も聞こえてきます。

もうこんなことはやめにしませんか。私たちの町は、いろいろな考えの違いはあっても、ここまでの分断が生じたことはありませんでした。年に一回のお祭りで、立場をこえて交流してきたことを思い出してください。

仲の良い寿都を取り戻すためにも調査は撤回しませんか。



濱野勝男さん「核のゴミのないふる里を！」

島牧村議会議員であり漁協組合長である濱野勝男さんに先日、お目にかかりました。

「どうして自分の町のことなのに声をあげないんだ！」「立場とか、しがらみなんて関係ない。そんなこと言ってる暇はもうないんだよ！」「みんな覚悟を持って声を上げなきゃダメなんだよ！」

言葉のひとつひとつが心に染みしました…。激励されて帰宅。

チカラ強い言葉がずっと耳から離れません。

濱野さんの覚悟が素晴らしかった。

寿都の町民もそろそろ声をあげませんか！！

私たちも、また明日から出来ることを後悔しないようにやろうと強く思います！



美味しい我が故郷⑤



寿都産サケの刺し身。ヤバいくらい美味しい！

町民の会川柳⑦

膝あわせ 一人ひとりと 対話する
賛成は 一人もない 核のゴミ
しっかりと 未来見据えて 出す答え
天上の 機関区長の 郷土愛
寿都への 想いの深さ 揺るぎなし
頑然と 核ゴミノを 突きつける
出来秋を 祝うがごとく 赤トンボ
収穫を 皆で楽しむ 芋煮会
掘ったいも 旨さに目覚めた 我が娘
越前は わが町歴史と 共にあり
練御殿 越前国の 橋渡し
いらぬよ 寿都の歴史に 核のゴミ
大切な 歴史と文化 捨てないで
あつけなく 切られたコブシ 歴史泣く

(や) (ま) (ま) (こ) (こ) (こ) (こ) (こ) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋) (秋)

あなたの川柳もぜひお寄せください。
kakugomino@gmail.com

交流会のお知らせ 「はんげんぱつ新聞」末田一秀さん来町

「はんげんぱつ新聞」編集委員の末田一秀さんが10月11日に来町され、町民の会との交流会を行います。会員以外の町民の参加も歓迎します。ぜひおいでください。

日時：10月11日（月）18時～

場所：ウィズコム大ホール

末田一秀さん：大阪府庁で1980年度から2017年度まで環境行政に従事。自治労の脱原発運動として取り組んだ原子力防災にも詳しい。昨年からは寿都町の文献調査に関心を持ち、ブックレット『どうする？ 原発のごみ 高レベル放射性廃棄物処分場問題を考える』を刊行。



子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX：0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP：http://kakugomi.no.coocan.jp/

FB：https://www.facebook.com/106569234530018/

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811

